

腰痛離職者ZEROを目指して



社会福祉法人けんこう
介護老人福祉施設 美さと

当施設の概要

- ▶ 入所定員50名 ショートステイ10名
- ▶ 計60名
- ▶ 平均要介護度 3.9
- ▶ 職員数 介護士18名（女性14名 男性4名）

取組前の状況

- ※ ベッドの高さを調節する際、時間に追われている為か適切な高さにせずにケアを行っている。
- ※ 職員1人での抱え上げや、バスタオルを使用しての2人介助が主流である。
- ※ 腰痛等身体の不調により欠勤者が出る日もある。
- ※ 過去には腰痛が原因で離職した職員もいた。

ノーリフティングケア導入のきっかけ！！

衝撃

ぎゃん良か！福祉用具体験会

ノーリフティングケア フェス in筑後

場所 | 九州芸文館（JR筑後船小屋駅そば） 福岡県ノーリフティングケア普及促進事業
日時 | R5年5月11日（木） 筑後地域 連絡協議会
モデル施設

ノーリフティングケアに取り組む施設職員に直接話が聞ける絶好のチャンス！！



すごいなあ～！
うちにはなにもない！！

ノーリフティングケア委員会結成

施設長

統括マネージャー
（生活相談員）

職員の健康管理担当
（看護師）

個別アセスメント
プランニング
（介護支援専門員）

教育担当
（介護士2名）

福祉用具導入計画
管理担当
（機能訓練士、介護士）

総勢 8名

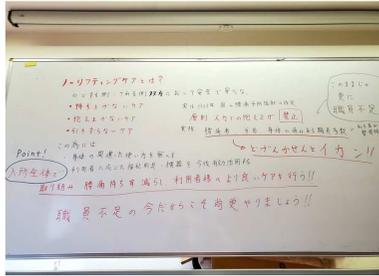


期待と不安の中一部の職員からは・・・

職員が少なく忙しい状況で何でこの時期に始めるのかな～？

という消極的な声が聞かれたのも事実

ノーリフティングケアの必要性の共有



介護職員の腰痛の状況（6月末時点）



入所会議内に必要性について共有

目的

- ノーリフティングの目的は
- 職場の労働安全衛生水準を向上させること、
- そして職員が安心して安全に働ける職場づくりとともに、
- 対象者も安全で安心してケアを受けられることです。

各階PC(DropBox)にて共有

あまりの腰痛持ちの多さにどげんかせんといかん！！

腰痛

- あり 14名**
 - 常に痛い、またはよく痛みがある
 - 時々痛い
- なし 4名**
 - 痛みまでは感じないが疲れやすい
 - 全く痛まない

腰痛チェックアンケートを介護職18名に実施

78% (約8割)

が腰痛があるという結果に・・・

美さとでの取組について①

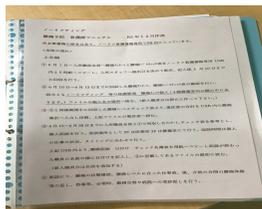
気づきの木

- ▶ 腰痛に関するリスク
- ▶ 腰痛以外のリスク
- ▶ 愚痴にならないように



腰痛等へのリスク+職員の気持ちの抽出

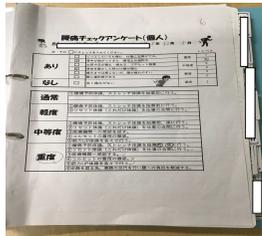
美さとでの取組について②



腰痛対策マニュアル作成



健康管理担当による個人面談と腰痛緩和に対するアドバイス



腰痛アンケート実施



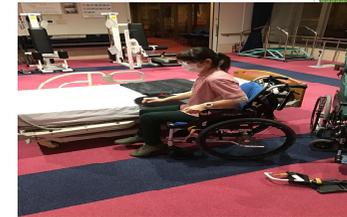
各箇所にストレッチを掲載面談の下、各職員腰痛対策実施

職員一人ひとりへの腰痛対策の意識付け

美さとでの取り組み③



スライドシートを用いた移乗介助の練習



ベッドの高さが重要



動画で配信してみよう



教育担当による体交等の練習

腰への負担軽減した介助の習得

美さとの取り組み④

ケアプラン会議



各階利用者1人選定
ケアプラン〈第2表〉

臥床時等、定時の体交にて、ベッドの高さ調節・スライディングシートを敷き、定位置へ安全な移動と体交ができ、皮膚トラブルが防げる

利用者様・職員双方安心・安全の実感



レクチャー後実践



美さとの取り組み⑤

浴室用リフトを設置

職員が高齢化し、介護4~5の利用者を抱え上げることができなくなったため



再雇用者の離職は止まった

腰痛、膝痛、手首痛
軽減

ノーリフティングケアにより
職員の身体や雇用を守る



今後の課題

- 特養での取り組みだった為、他部署の職員へノーリフティングケアの必要性を伝えていく！
- 福祉用具の購入を検討
 - ①スライディングボード
 - ②跳ね上げ式車椅子
 etc.
- 継続してノーリフティングケアに取り組みながら、業務の効率化を実践していく
- 職員の腰痛ZEROを目指す！！

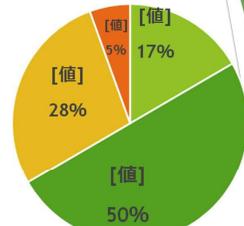


to be continued

ノーリフティングケアに取り組んで



介護職員の腰痛の状況（11月末時点）



腰痛

あり 12名

なし 6名

おむつ交換や移乗介助時等、職員一人ひとりが、利用者様・自分自身の安全・安心の為、意識して、ベッドの高さを上げるようになった。

腰痛あり (R5.6 14名 ⇒ R5.11 12名) 78% → 67%

数値という目に見える成功体験